科学講演会の報告

平成２５年１０月１７日(木)、１年生全員と２年生 SSH 課題研究選択生徒が、中村桂子 氏（生命誌研究館館長）による科学講演を聴きました。テーマは「生命誌という新しい知　― 人間・自然・科学技術を考える ―」で、人間も含め全ての生命は、一つの生命から始まり繋がっているという「世界観」をもとにした考え方の重要性や、わからないものに注目し探求心を持って学ぶことが理科を学ぶ上で必要であるということを教えていただきました。講演会に参加した生徒の大部分が、人間が自然の一部であるということを感じ、生きものとは何かを考えたことが、アンケート結果からうかがうことができました。以下は、生徒の感想の一部です。

- 私は科学とは考えて答えを見つけることではなくわからないことを考えることだということにとても感動しました。考えて答えが見つからないのであれば考えた意味がないと思っていたので、科学に対しての視点が変わりました。
- 特に心に残ったことは「つながりの中で人間は生きている」ということです。生物の進化・絶滅の過程がないと、私は今存在していないということが、印象深く、生きていることの大切さを感じました。今まで生きてきた祖先や生物から、リレーのバトンを託された気がします。
- 約千年前から日本には自然に対しての美意識があったことを知ることが出来、面白かった。本質を見るということに何かを感じ、鳥肌が立った。
- 蝶の足の構造と人の舌の構造が同じことや、オサムシの種が変わるのが日本の出来方に関係していることなど凄く感動した。
- 一番印象に残ったのが、「20 世紀　機械の時代」、「21 世紀　生命の時代」。機械により便利になった今日、私は今まで生命や共生について考えたことはなく、先進的な新しい機械に興味があり、今までそれらのことしか考えてこなかった。今日の講演が生命・共生について知る、考えるきっかけとなった。